

もし俺がSAOにいたら

れぐるぐる

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

オリ主として自分がSAO世界に行っちゃいます

都合の悪いフラグはへし折っていくワイ、それに構わず無双しハーレムを築くキリト…

ある意味チートなふたりが織り成す原作崩壊はちやめちやSAOライフ！

目次

ほんへのおまけ	
甘くなりすぎた… (ほんへおまけ)	1
プロローグ	
プロローグ	4
1章 妥当!居るファン愚雑魚ボルト労働	
色々予想以上だった…	6
うるさすぎる門出	9
騒がしすぎるレベリング	12
中身が薄すぎる攻略会議	16

ほんへのおまけ

甘くなりすぎた… (ほんへおまけ)

前回までの血筋… その血の記憶

オレハニンゲンヲヤメルゾ… キリトオ!

内なる闘争心が燃え滾ったロリコンとスケベ

← 殺意を覚えるロリコンとスケベ

←

内なる本能が暴走し、萌え滾ったロリコン

ほんへ…のおまけ

れぐる「じゃあ、チーム「シリカちゃんを守り隊」、頑張るぞ」「一人でやってろロリコン」ドゴツアベシ!

キリト「つたく…こんなやつ放っておいて… 2人とも、いよいよボス戦だ。このロリコンを反面教師にして、気を引き締めて勝とう。俺はパーティーメンバーを「死なせたりしない」…マジでいい加減にしろよ?」

れぐる「抑えて抑えて!お願いその殺気閉まって!言いたかっただけだから!ごめんね!」

キリト「つたく…じゃあまず、いるファング雑魚ボルト労働についての…ん?いるファング雑魚ボルト労働いるファング雑魚ボルト労働…おい筆者、変換がおかしいことn「おいバカメタ発言はやめろ!それもうn番煎じかわからんから!」…言ってみたかっただけですう」

れぐる「ちゃっかり真似すんなエロリト!」

エロリト「ああ…?いるファング雑魚ボルト労働を倒す前にお前の息の根を止めるぞロリる」

ロリる「おうおうおうおうおう…?ここでやろうってのかキリノジ…」

キリノジ「そっちこそやろうってのか?れぐる痔…「地味に俺を

disるな！傷つくから！豆腐メンタルにヒビg「本当に黙ってくれ」

れぐる「はあ？」ジリジリ

キリト「ああ？」ジリジリ

ヤンノカコノシシユンキアアン!?

ンダトコノヤロアアン!?

シリカ「なんていうかその… 入る隙がないですね、アスナさん…」

アスナ「そ、そうね… なんだか悩んでいた自分が恥ずかしくなってきた… それよりシリカちゃん、一緒にお昼にしない？サンドイッチ作ってきたの」

シリカ「いいんですか!?!ぜひぜひ！ぜひそうしましょ「アスナの飯… だど… !?それもサンドイッチ… !」ピクツ… えーと… キリトさん？」

キリト「アスナ！俺にも10個！くれ！」

アスナ「騒がしい人にあげるご飯はありません。あつそうだ。れぐるくんにもあげないから」

れぐる「そんなあ… そんなのつてあんまりだぜ… 昼抜きは辛いなあ… 「あつあの、れぐるさん」… んー？どしたの大天sgゲフンゲフン、シリカちゃん」

シリカ「あの… 私、れぐるさんのためにご飯を作ってきたんですよ… そ、その… ふたりで一緒に食べませんか… ?////」

れぐる「君の臍臓をたべたい」

シリカ「もうっ… れぐるさんつたら… ////」

れぐる「うへへへへwwwシリカちゃんかわゆすwwwつべえまじつべえ結婚しよ？」

キリト「… なんだあれ… はあ… アスナ「ね、ねえ、キリトくん… 私にはその… 行って… くないの… ?ウワメツカイ」つぐ… あのアスナさん？」

アスナ「キリトくん…」ジー

キリト「あ、ああ… アスナ… その… 俺に毎日、味噌汁作って

くれ…／＼

アスナ「!!は、はい！不束者ですがその… よろしくお願いします
／＼／＼」

シリカ「れぐるさく／＼」スリスリ

れぐる「あー、シリカさん？ハラスメント警告がその… おーい
？シリカさーん??」

キリト「アスナ…」

アスナ「キリトくん…／＼／＼」

ディアベル「君たち…あー…うーん… 今日はやめとこう、う
ん。また後日作戦を…皆…？」

解放隊の皆さん「リア充は…しね！」「」

プロローグ プロローグ

「相変わらず… 俺の部屋は殺風景なままだな」

つい俺は、俺以外誰もいない部屋で1人、ため息を交えながらそんなくならない独り言をこぼしていた。

俺の名前は菊池 蓮。都内の中学校で一般的な高校生活を送っている男子中学生だ。

… 正確にはもう男子中学生では無い… か。2年前の2022年、俺は、今では日本を揺るがした「過去」の大事件となったSAO事件の生き残り《詳しく言うとSAOサバイバー》である。

高校受験を間近に控えていた俺は、内申、模試、偏差値のどれもが上々であり、また志望校は定員割れと、少し心に余裕が出来ている状態だったので、息抜き程度になると、両親2人を説得し、SAOを手することができ… 後のSAO事件に巻き込まれることとなったのだ。

「今振り返ってみると、俺は貴重な経験ができたのかもしれないな… 全力で、そして命懸けで生きて生きて生きて… そして戦い続けて。何に対しても不信感を抱くだけだった俺には本当に刺激的だったな… 言っちゃ悪いかもしれないが、茅場には本当に感謝しいとな…」

変わらず無音な空間で、変わらず俺は独り言を呟き続ける。

「でもな… またお前を被る時が来るかもしれないって心のどこかが考えちまうんだよな… いや… 来るかもしれないじゃないって、来て欲しいが正解かもな… その時はまた、よろしく頼むぜ、相棒」

そして俺は、酷くボロボロになってしまったヘルメット型フルダイブマシン… ナーヴギアに手を掛けた。

「んじゃ、そろそろ俺達の長く苦しかった冒険の話… 始めようか」

今から俺が語るのは俺が経験し、感じてきたバーチャル世界の2年間の記憶である。

他愛ない話、二番煎じかもしれないが… あなた達の期待を削がないよう、精一杯努力していくことを誓おう。

それでは、昔話を始めていこうk

「ちよつとれぐるさん!? さつきから何ボソボソ呟いてるんですか! 早く開けてくださいー! デートの時間が無くなっちゃいますよ!?!」

… なんてこいつはいつもいつも…

「なんでお前うちにいるんだよ… あと俺はお前と付き合っていないしデートなんてしない。そんな約束もしていないし興味ないから回れ右して帰って、どうぞ。俺はたしかに低身長好きだけどな、お前みたいな幼児には興味が…」

「幼児じゃないですよ! しかも、年齢あんまり変わらないじゃないですか! 駄々こねてないで、行きますよ!」

あれえ… 聞く耳もつてくれないなあ… ワイ、まじで困るンゴw w w

「あの… れぐるさん、声に出ちゃってますよ… その癖と口癖、直したほうがいいと思います」

「お前みたいな幼児にとやかく言われたかない。とつとと帰れ!」

「嫌です! 無理矢理にでも居座っちゃいますよ! 今日こそはデートをしてもらいますからね!」

「嫌だ! 俺はS A Oで一生分働いたしリハビリで体力失った! ああもうダメだアおしまいだア…」

「ムカツ… そうですか分かりましたよ。それなら私にも手がありました。おーい燐ちゃー!」おつまそれは卑怯! はいはいわかったわかった! 行く、行くから!」

「ふふ、話がわかる人は好きですよ? れぐるさん。それでは行きましょう!」

「へいへい…」

えー… おほん、というわけでS A O、振り返っていきますよ…

1章 妥当！居るファン愚雑魚ボルト労働 色々予想以上だった...

ー2年前ー

「よしっ... やつと手に入れたぞナーヴギア...！」

これで原作では死んだあいつを... はっ、いかんいかん。あつどうも、蓮です。

えーはい、皆さんなんとなく察してると思いますが、実は俺、この世界の住人じゃないんですよね。起きたらここにいたつて言うかなんて言うか... とりあえず、S A O やつてみたかったんで買ってもらいました。いやホント苦戦した... 受験許すまじ... 俺の過去話はどうでもいいからはよ被れ？あつはいすいません。じゃあ待ちに待ったS A O、やつていくぜえ!!

「リンクツ... スタアト「お兄うっさい！黙れ！ぶっ飛ばすよー」あつはい、すいません。リンクスタートー...！」

燐ちゃん酷い... お兄ちゃんが何したつて言うんだ... あつ待つて2年閉じ込められるつてことは燐ちゃんにしばらく会えなくなるつてことkあつ待つてダイブするの待つてほんとに待つてああああああああああ

ーアインクラッド第1層 はじまりの街ー

「あつ... 着いちやった... ここがアインクラッド... まるで現実だな... ああ... 燐ちゃん... お兄ちゃん頑張つて生きて帰るからね... 2年待つててね...！」

これは俺的にポイント高い... けど燐ちゃんと会えないのはポイント低い... 気、気を引き締めてつと... 気分転換に早速シリカちゃんを...

「おーい！その黒髪の地味メンなお前〜！」

おいおい呼ばれてるぞ黒髪地味メンwww典型的な陰キャじゃねえかよ〜誰だよそんなのw

ポンツ... ん？ポンツ？なんで俺肩叩かれたんだ「無視すんなよ釣

「あつと… そうだった。じゃあ二人とも、また後で会おうな！」

あれ… これ確かログアウトできなくなるやつ…

「!? ログアウトボタンがねえ…！」

「なっ… !? そんなことが… ほんとにない… GMに連絡…」

「ええ… まじかよマス才最低だな」

「れぐる、今はふざけてる場合じゃ…！」

『SAOプレイヤー諸君 e t c.』

みんなこれ聞き飽きたよね? とりあえずカットで… あつ待ってこれ俺わかる、俺わかるよ? ちようどいいところだからって終わるやつだ。ほらフェードアウトしてツテル… アツオイマテイ… ! マ

ハナシ ダ アッ アッ アッ アッ

うるさすぎる門出

前回までの牛スジ：… じゃなくてあらすじ

← SAOキター！

← 受験？ナニソレオイシイノ？

← シリカたん探してたらキリトとクラインいた

← もう見慣れたし聞きなれたアナウンスきた

← フェードアウトした

以上！

そして現在

れぐる「んで2人とも。これからどうするんだ？」

クライン「おいおいコミュs：… れぐるさんよオ、なんだそのメンタル。あんな意味わかんねえアナウンス聞いて平気ってまじかよ！」

キリト「本当にな：… 何か手馴れてる感じじゃないか。同じようなこと経験したことあるのか？」

れぐる「いやいやいやいや、そんなわけないじゃないですかヤダー。学校以外家に出ずにニー活してた俺だぞ？こんな経験が2度目で

あったたまるか（実際は読んだことがあるというか見たことがあるというか：… なんて言えるわけねえよな）」

キリト「ニー活って：… ま、まあ経験がないことはわかった。疑ってごめんな。それじゃあ2人とも、これからどうするんだ？」

クライン「俺はダチと落ち合う約束してんだ。だから2人とはここでお別れだな！」

れぐる「俺は：… えーと：… どっかの格安宿でそこら辺のモンスター狩りながら一生ニー活？」

キリト「OK。じゃあクライン、また会えたら会おう！それまで死ぬんじゃないぞ？」

クライン「あたぼーよ！おめエも死ぬんじやねえぞキリト！あつあ
とれぐるも！」

キリト「ふっ… それじゃあ行くか！れぐる「おいおいおいおい
いちよつと待てよ、何で俺も行く事になってるの？俺引こもるって」
なに言ってるんだ。レクチャーしてやっただろ？つまりそういうこ
とだよ」

れぐる「キリト… お前は… お前だけは… 死んでも許さねえぞ
ちくしよオオオオオオオオオオオオオオオオオオ！」

キリト「はいはい… それじゃあ行くぞ、れぐる。まずは適当にレ
ベリングするか！」

れぐる「んあああああ働きたくねえよオオオオオオオオオオオオ！
燐ちゃあああああん！燐ちゃんに会わせてよオオオオオオオ！」

キリト「あーもううるさいぞれぐる。格安宿紹介してやるから着い
てこい！」

れぐる「それまじ？じゃあついてく」

キリト（こいつ… チョロいな）

おまけ

れぐる「今頃燐ちゃん何やってるのかなあ… 会いたいたなあ」

キリト「なあれぐる、その燐ちゃんって誰なんだ？」

れぐる「ふっ… 何を隠そう燐ちゃんは俺の世界で1番可愛い妹だ
！」

キリト「あつそうですか。じゃあその妹に会うためにSAOをさつ
さとクリアしないとな！」

れぐる「そうだな… ！てかキリトには妹とかいないのか？（まあ
いるの知ってるんすけど）」

キリト「一応いるんだけどな… 今の俺にあいつに会う資格は…
あつごめん。今のは忘れてくれ」

れぐる「そ、そうか。なんかごめんな」

キリト「い、いや。平気だよ、うん」

……………

れぐる「どうすんだよこの空気!!」

今日の！一方その頃燐ちゃんは…のコーナー！

燐「えっ？お兄がSAOに捕われた？ふーん、そっか。まあいいや。うるさいやついなくなっただし。＼ピンポーン／あつ、友達だ。じゃあ遊びに行ってくるね、お母さん」

後にこの事を知ったれぐるは、一晩中部屋から出てこなかったとかいないとか…？

騒がしすぎるレベリング

前回までのおすし… じゃなくて牛スジ

← アナウンスを無視するコミュ障

← 無視されるコミュ障

← 引きこもろうとするコミュ障

← 発狂するシスコン

← 金に釣られるシスコン

れぐる「なんで俺こんなに侮辱されてンダヨ…！アツマタフェー

ドアウト…！ヤ、ヤメ… ヤメルオー！アッ アッ アッ

！……………」

ほんへ

あの後、無事に格安宿まで行くことができたから、その日はキリトと休むことにした。ちなみにベッドは同じ。腐女子の皆さんこちらへどうぞ。そして現在、SAOに捕われて1週間が過ぎていた…

ウイイイイイイイイつすどうもーれぐるでーす

今日はですねえ… フレンジーボア狩りをやっていこうとパリー

ン パリーン パリーン

… さすがイキリト先輩！やりますねえ！」

キリト「れぐる… 心の声漏れてるぞ… 変な妄想ばっかしてないでお前もレベリングしろよ」

れぐる「嫌だよそんなの… レベリングめんどくさいじゃんか…」

俺はほかの何よりも作業ゲーが嫌いなのだ。うんうん

キリト「確かに… でもレベリングしてたら、女の子にモテるかもしれないぞ？」

れぐる「ぐっ… 確かに… つてかそんなこと考えながらレベリングしてたのかよエロリト。やっぱスケベだなあ… おおつと口が

滑った」

キリト「おいなんだそのふぎけたあだ名は！今すぐ撤回しろロリコン！このロリコンでありながらシスコンでもある変態め！」

れぐる「うるせえ！俺は愚弄してもいいがロリを愚弄するな…！ぶっ飛ばすぞ!？」

キリト「なんだと!?!ぶっ飛ばすぞは俺のセリフだこのロリコン！ぶっ飛ばすぞ!？」

れぐる「ああ!？」

キリト「やるつてのかわ!?!このロリコンめ…！ならやろうじやないか。後悔しても知らないからな？」

ああこれはデュエルする羽目になるやつ… ああもうどうにでもなれ…！

れぐる「ふつ… 後悔するのはどっちだか… じゃあせーのでいくぞ… せーのっ」

キリれぐ「デュエルスタンバイ！」

戦闘中

れぐる「ふつ… 元ベータテスターが聞いて呆れるぜ。M M O R P G初心者のゲーマーヒキニートの俺に剣を弾かれるなんて… 悔しいかキリトオ！」ガキソングキソングキソング

もう既にこいつの剣の使い方はアニメで何回も見た。剣の使い方上手くなりたいよね… 男のロマンだよね… あっ今はお互い剣でガキソングキソングキソング（語彙力）

キリト「誰がキリトだ！だがれぐる… 速さが足りないな…！もつとだ… もつと早く…！そこだ…！『レイジスパイク!!』」
なっ…！ここで突っ込んでくるかよ普通…！速すぎる…！だがこれくらい… ここだ！

れぐる「チイツ…！パリイ！… ぶっ、隙だらけだぞキリトオ！『ホリゾンタル・スクエア!!』」

キリト「なっ…！?なんでもうその技習得して…！パリイ… パリイ… 残像!？」

れぐる「残念だったなキリトオ！ホリゾンタル・スクエアはラスイ

チが残像なんだよ……！おらア！」

キリト「ぐっ……！一撃入れられちゃったか……俺の負けだ。強く
なったなれぐる……」

れぐる「ふっ…… お前もなキリト…… っておい待て…… あっやりす
ぎたんじやねこれ」

なんか俺とキリトの周りの木が全部切り倒されてるんですがそれ
は

キリト「あっ…… 森が……」

宿主「おいおい騒がしい…… なっ…… お前ら……！ っただけ森を荒
らしたら気が済むんだあああああああああ！」

れぐる「ワ、ワイはなんにも知らないンゴwwwおっと女の子が助
けを呼んでる…… 助けないかn「逃げるなよ？れぐる…… 死ぬ時
は…… 一緒について約束しただろ……？」嫌だあああああああああ
あああああああああああああ！」

その後、宿主にすげえ怒られました。ちなみにレベルが10ほど上
がっていました。

ー現在のレベル 熟練度ー

れぐる 18 300 (剣を前に興奮し、素振りをしていたため

熟練度はキリトより高い)

キリト 20 150

おまけ

少年2人、入浴中

れぐる「いやあ…… 今日疲れたなキリト…… おかげでレベルがめ
ちやめちや上がったわ…… ありがとな」

キリト「いや、気にするなよ。俺もいい経験になったからな、デユ
エルなんて。ホント、お前といるのは楽しいな…… 俺はずっとここに
いてもいい気がするよ。お前はどうかんだ？れぐる」

れぐる「俺か？俺はもちろん隣ちゃんに会うためにもはやくクリア
したいな！「言うと思った……そこは冗談でも」だけどな…… お前と
いるのもすっげえ楽しいんだキリト…… だから……」

キリト「なっ…… なんだよ改まって……」

れぐる「今夜は・・・寝かさないぜ☆」
その後夜更かしして男子会（参加者2人）した

中身が薄すぎる攻略会議

前回のカカシ……じゃなくてA・RA・SHI

ユアマイソウソウイツモスグソバニアル

おい……デュエルしろよ

←

ホモ営業

←

おわり

本編はいる前の挨拶(?)

最近の悩みはデュエルによる筋肉痛。どうも、れぐるです。SAOが始まって1ヶ月が経ちました……。そういえば最近、無茶苦茶なデュエル(ついでにレベリング)をキリトとやるのが日課になってしまい、気づけばレベルが20をとうに越していました……。ちなみに第1層の適正レベルは11らしいです……

こりやあ最前線は俺ら2人が走っていると云っても過言ではないンゴwww

キリト「お前……また声に出てるぞ?」

れぐる「ええ……(困惑)この癖治る気がしないんですがそれは」

キリト「気合いで直せ」

れぐる「ああもう無茶苦茶だよ……あつ、本編どうぞ〜」

キリト「おい、さすがに唐突すぎるぞ!なんなんダオマエハ……ッ

テオレモフエードアウトカヨ……!コノネタアキタ……アゝアゝアゝアゝアゝ!!!」

ほんへ

例の格安宿の1室

れぐる「なあキリト、今日から本格的に第1層攻略つてまじ?」

キリト「らしいな……攻略会議も開かれるみたいだな。話だけでも聞いていくか?」

れぐる「そうするかあ……確か転移門前の広場でやるんだっけか?んじや早速準備していくか」

キリト「そうだな」

転移門前の広場

キリト「ここか…じゃあ適当な場所に座るか」

れぐる「そうだな…じゃあ俺は誰もいなさそうなので1番端っこ
「何言ってるか聞こえないだろ難聴コミュ障ロリコンニート」やかましいわ！このスケベ！エロリト！」

エロリト「なんだと…？またボコられたいようだなロリる…」

ロリる「ああ…？分かってんのか…？今のところ俺らは49勝
49敗1引き分け…これで全てが決まる…この言葉の重みが」

エロリト「ふっ…今がその決着の時…ってわけだ。わかっている、その言葉の重みなんて」

ロリる「油断しているとその出鼻…へし折ってやるぞ」さつきから
なんやあんたら、ガキはそこら辺走り回っつけ、攻略会議にはいらんわ…あ？」

エロリト「あんた…何様だ？攻略会議はまだ始まらないはずだろ
？なら余っている時間で茶番させてくれてもいいじゃないか…」茶番って言っちゃったよこのスケベ！」お前は黙っつけ！」

???「ワイはキバオウっちゅうもんや。「名乗れって言っていないだろ
関西弁」なんやと!?ガキのくせに調子に…！」

エロリト「お前、今のレベルはいくつだ？」

キバオウ「レベルやと…？今は10や…それがどうだっという
んや！」

エロリト「そうか…なあ、第1層の適正レベルがいくつか知ってるか？」

キバオウ「そんなん知つとるわ、レベル11やろ？1足りないくらい
いどうってこと…」そんなに余裕越えてるとお前、死ぬぞ？」…なんやガキ、さつきから偉そうに…！じゃあお前のレベルはなんなんや!？」

エロリト「俺か？俺はレベル22だ。ちなみにここの変態は20
だ」

ロリる「変態とはなんだ変態とは！このスケベ！…まあそういう

ことだよおじさん。ここはこの俺様に任せてくれよ！余裕のよっちゃんイカだからな！」

エロリト「お前が1番慢心してるんじゃないか…？」

キバオウ「な…な…。」

ロリる「ふはははは！慢心せずして何が王か！貴様らは俺の足元にも及ばないのだよ、雑種！」

エロリト「お前ってやつは…。」

キバオウ「なんなんやあんたらは！なんでそんなにレベルが上がるんや！チートでも使ったんか!?通報したr「まあまあ落ち着いて、キバオウさん」…ディアベルはん…。」

ディアベル「はいじゃあその2人も！あんまり怒らないでくれ、キバオウさんは悪気があって言ったわけじゃないと思うんだ。じゃあさつさと攻略会議を始めていこうか！」

キリト「…仕方ない、大人しく話を聞くか、れぐる…。れぐる？」
れぐる「えっえっえっこんな人にいたのにあんな目立った行動を…バカか俺死ぬのか

ああああ…。」

キリト「相変わらずだな…まあとりあえず聞いとこう、な？れぐる」

れぐる「そ、そうだな…じゃテキトーにチーム決めまでカットで」

キリト「カット…？お前、髪でもキルノk…。」

ディアベル「キモチテキニナイト…。」

チーム決め

れぐる「んで、案の定あぶれると」

キリト「予想してたのかよ…ん？あの二人組も溢れてるな…ちよつと声かけてみるか」

れぐる「ええ…ホントにできるのか？スケベ。まあ頼んだ」

キリト「お前マジで1回切り刻ませてくれ」

キリトナンパ中

キリト「と、いうわけで、同じパーティーになってもらうことになった。これからよろしくな」

「… ええ、よろしく」

???? 「はい！よろしく願います！」

れぐる（ん…？確か原作では1人だけ溢れてたはずだが… まあそのひとりは間違いなくあのフードを深くかぶってるアスナなんだが… あと1人の子は… 子は… まさか…！）

キリト「おれぐる、自己紹介。自己紹介はよ」

れぐる「あ、ああ… え、えーと俺のななななまままえはれぐるるる。ああああえええええええとああああああ」プシュー

れぐる（やべえ、これ下手したら生… うあ…）

キリト「… は？いやちよつと」大丈夫ですか!?」ほんとそれ。まあほつといてやれ。あつそうだ君の名前は？」

れぐる（そう… 君の名前は…？）

???? 「あつ！えーと、私の名前はシリカです！よろしく願います！」

れぐる「あああああああああああああああああああああああああ
あああああ！」ドツカーン！

シリカ「ええ!?れぐるさん!」

キリト「爆発オチなんてサイテー（棒）」

フードさん「私もう帰っていいかな」